

神想観

谷口雅春

第一章 神想観のすすめ

神想観は日々の精神的糧

神想観をしているうちに自然と「実相」が分る

毎日一回は神と対面しましょう

睡眠時間の少ない時ほど神想観をしよう

神想観こそ人類光明化運動の基礎

第二章 神想観とは何か

「実相覚」によって真の自己を把握するのが神想観

「実相世界」及び「実相覚」についての問答

神想観は実相の扉を開いて実相を知る最も簡単な

鍵

「観」とは心の眼でみる事——「観」ずれば現われる

生命の実相と申候事は

神想観は神から直接授かった行法

神想観とヨガ行法——一行に澄み切るべし

二種の靈力増大法——神想観は積極的に靈力を増大する法

神想観は守護の神に護られて行なう完全確実な観法である——「招神歌」の意義と神想観が他法に優れたる行法である所以

神想観は無想観ではない

神想観は心の視力を集めて実相を静観する事

英人ロツフェとの問答——「無念無想」の問題

「円満完全」を念ずるのは迷いの心であるか

神想観は「術」ではない。神の力、仏の力である

神想観は「疑念」でない——神想観は最も正しい

意味における精神統一法

神想観は必ずしも精神統一を必要としない

神想観によって罪の消える原理——罪と懺悔

神想観は「欠乏観」ではない完全な自己放棄、全

自我の生れ変りである

「観神想観は「ハイハイ有難うございます」なり、

絶対他力への帰命信賴の表白なり

神想観は他力の行

神想観は「絶対力」である。実相が実相するコト

バの大作である

祈りとしての神想観——「祈り」は哀願ではない

祈りは人間が神に振向くこと

神想観にまさる「祈り」はない——神を真に愛するものが神想観

「観る」ことは「祈る」ことである

神想観は実相観なり——与えられた勘定書を正確に算出する「祈り」なり

神想観は現象観ではない、神を讃美する「祈り」である

「人格的交りとしての祈り」についての問答——

神と人との関係

人格的祈りと観法による祈りについて——神想観は「祈り」と「観法」との調和合体せるもの

常住坐臥の祈り

神想観は父子の対面

神想観は永遠の依りどころ

神想観は最高の悦び、最高の幸福

神想観は祇管唯観実相

神想観は全身が真理となるため

神想観は身口意の三業をして神の相を現ぜしめる

神想観は宇宙のいのちと一つなる自己を発見する

行法である

神想観三昧境

三章 神想観のやり方

一 姿勢

1 姿勢について

神想観は吾が全身真理となる行法なり
神想観において正しい姿勢の大切な所以

2 坐り方

略坐

正坐

略正坐——婦人の場合

重心の落し方

引力と姿勢

頭

坐の心得

足の征服は物質に対する生命の勝利なり

座布団

椅子に掛けてやる場合の姿勢

3 合掌

合掌の位置——その生命磁氣的意義

合掌の宗教的意義

角度

神想観中自然に手が下る場合

4 瞑目

瞑目
眉

5 姿勢についての質疑応答

神想観の坐法は先生大悟の時得られたるものであるか

神想観の時、眼をつぶったまま眼の球を上方へ向けることについて

神想観の坐法と坐禅の坐法との優劣

二 招神歌・気合

1 招神歌

招神歌朗誦

歌の意味

招神歌は精神統一の単なる手段ならず

2 気合 “イユウ”

気合いとは

三 祈り・観念・呼吸——「基本的神想観」

1 祈り

祈り

「吾れ今五官の世界を去って」とは

2 神想観において呼びかける「生長の家大神」について

キリスト教信者よりの質問

「万教帰一」面よりの質問

3 呼吸と観念

(1) 遠隔指導

(2) 直接指導

(3) 遠隔指導と直接指導との優劣——神想観の指導者は生長の家の神であるある

(4) 「息」について

(5) 呼吸法についての問答

(6) 基本的神想観実修（道場での口伝）

光明思念の歌・拍手

四 各種の神想観

神を讃える神想観

蓮華日宝王地観

如意宝珠観

潮満の珠、汐干の珠とは

浄円月観

観普賢菩薩行法

自分自身を普賢菩薩と観じよう

四無量心を行ずる神想観

「四無量心」とは

自己礼拝の神想観

和解の神想観

神を愛する神想観

隨時隨處神想觀

最も簡單にして本質的な神想觀

絶對者と一体になる神想觀

六 神想觀の時機、場所——就寢前・起床直後の自己

暗示法

就寢前に神想觀の大切な所以

就寢前一切を許し感謝する祈り

睡眠中に神の智慧を受けるには

起床直後の祈りの重要性——「意識の門番」と自

己暗示法

朝目覺めたときの祈り

朝、太陽に向つての祈り

一人の祈りと集團の祈り

明暗

第四章 神想觀実修上の心得と注意

一 觀法上の心得一般

実相を現象と對立的に觀ずる事なかれ

一念不動、ただ実相の完全さを觀ぜよ

神今、ここに立ち給うと觀ぜよ

「ありがたい」情感の神想觀をなせ

二 雑念

雑念についての問答

三 神姿、靈能、魔境、啓示

「神姿」を見るときは——靈能について

平川皆人氏の体験

眞の啓示を受けるには——「神示」「靈示」「良

心」

四

靈動、自動運動

靈動および自動運動について

靈動の起る理由——靈動を歡迎すべからず

靈動が起る場合は

「実相を觀ずる」という事は不可能ではないか

心動揺するとき如何に祈るべきか

神想觀と食事の量

神想觀中「自分」が遊離した感じがするのは

神想觀中身体が斜に向きたくなるのは

神想觀中雑音が聞える場合

神想觀中出る咳

第五章

神想觀と聖典誦誦と感謝行並びに愛行

神想觀と聖典誦誦

神想觀の助業としての感謝行

神想觀と現象処理

眞理を完全に悟るには——生長の家の三行

第六章 神意の実現

一 神想観に於ける祈り

「許さるべき祈り」についての問答

神想観において自己の希望を祈るとき心の構え

二 祈りがきかれるための条件

1 何に祈るか

祈りの対象たる正しき神の理解

2 何を祈るか

「まことなる願い」

何が正しいまことの祈りであるか否か、及びその

テスト

3 如何に祈るか

祈りの項目を紙に書け

かくの如く祈れ

4 何をなすべきか

祈りが実現するための実践項目

5 如何に反省すべきか

祈りの実現を妨げる諸原因

三 神想観による癒し——メタフィジカル・ヒーリング

グ

神想観によって病気が薰るという事の意義

「神癒」の骨髄

特に癒さねばならぬ病いのある時——肉体の実相

化

自己暗示から人格的祈りへ——聖霊による癒し

神想観によって実相を観じた後では

病人のために祈るとき心の構え遠隔思念

四 早朝集団祈願・世界平和祈願

早朝集団祈願

人類愛のための協同的祈りの提唱

世界平和の祈り

△補遺▽

竜宮・平和・普賢観

大日本神国観

伊勢神宮の神前に於ける神想観

日本国実相顕現の祈り

人類光明化運動推進のための祈り

祈り合いの神想観実修法

住吉大神宇宙浄化を祈る神想観